

北方四島交流事業は1991年の日ソ外相往復書簡にある「領土問題の解決を含む日ソ(日露)間の平和条約締結問題が解決されるまでの間、相互理解の増進を図り、もってそのような問題の解決に寄与すること」にあり、日本国民が旅券や査証なしで北方四島を訪問することができる特別な枠組みである。

今回は札幌大谷大学地域連携センターへ北方四島交流事業参加の依頼を受け、住民交流会やホームビジットなど様々な交流行事を通して、芸術活動が交流においてどのような役割を果たすことができるのかについて視察してきた。

タイトルにある「45° 14' 24.0"N 147° 51' 00.0"E」とは視察の際、滞在していたフェリーの停泊していた座標を示すものであり、写真4の風景は、「交流事業に参加する日本人」のみが見ることができる風景である。島内には既に日本の面影はなく、荒れ果てた墓を残すのみである。

戦後70年が過ぎ住民も2世代目に移り変わる今、彼らにとって択捉島は故郷といえるものとなっている。

何をどうすれば解決といえるのか糸口の全く見えない状況だが、この座標の示す位置こそ近くて遠い日本の立ち位置といえるのではないだろうか。

45° 14' 24.0"N 147° 51' 00.0"E

2016

- 1, 1DXmarkII, EF70-200mm F/2.8L IS II USM, 1/800, f4.0, ISO100
- 2, 1DXmarkII, EF70-200mm F/2.8L IS II USM, 1/640, f2.8, ISO100
- 3, 1DXmarkII, EF70-200mm F/2.8L IS II USM, 1/800, f2.8, ISO100
- 4, 1DXmarkII, TAMRON SP 35mm F/1.8 Di VC USD, 1/40, f16, ISO100

45° 14' 24.0"N 147° 51' 00.0"E



1

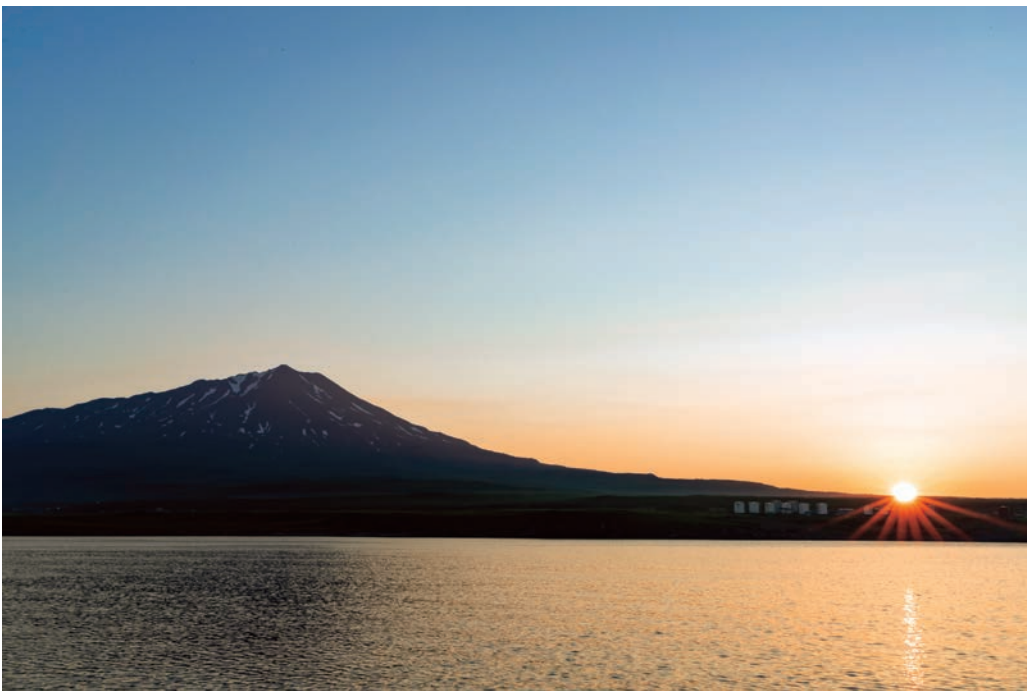


2

7/2/2016 3:40 (AM) Japan time.
45° 14'24.0"N 147° 51'00.0"E
択捉島、散布山の裾野より日の出。唯一残っ
ていた郵便局は老朽化のため解体され、瓦
礫は既に植物に覆われている。花は美しく
咲き誇り、島には新しい命が生まれている。



3



4